別添資料

●宮口一色行者祭囃子保存会

行者祭りの「行者」とは、奈良時代に大峰山などの山岳を舞台に活躍した修験者役小角（しゅげんじゃ　えんの　おづぬ）のことをいう。役小角は修験道の開祖といわれている。かつては多くの地区で行者講を組織し大峰山へ代参していたが、時代とともに講が中止され、代わりに行者を祭るようになった。

宮口一色の行者祭りは毎年旧暦６月６日に行われていた。戦争による中断があったが、地元有志の一方ならぬ努力の結果復活し、現在は７月の第２土曜日に囃子の奉納を行っている。

●西山万歳保存会

万歳は「新しい年が良い年であるように」との願いを寿ぎのセリフに込めて舞う正月の祝福芸。西山（現在の西岡町）に伝わる万歳は、江戸時代には刈谷藩の江戸屋敷にまで出かけていったと伝わるが詳細は定かでない。

現在は地域の伝統芸能を継承し、後継者を育成するため、地元・堤小学校の児童への指導を行っている。平成 17 年には愛・地球博の舞台に出演した。

●大沼雅楽会

雅楽は日本の音楽としては最も古く、1300 年以上前から現在まで継承されている。大沼雅楽会は明治 26 年、３人の地元有志が岡崎大樹寺の雅楽人から雅楽を習得し、免許を受けて師範になったことから始まったといわれている。

現在は大沼雅楽を次世代に伝承するため、小学生とともに学校行事や地域の発表会などで披露している。

●中根神楽保存会

神楽とは神様を祀るために演じられる神事芸能で、市内の神楽は地元の子どもたちの巫女舞を伴っている。中根町の神楽は明治 43 年頃、当時の青年会を通じて習い覚え、祭礼で奉納したのが始まりとされている。

現在は毎年秋の大祭で、地元の小学３～５年生の女子が巫女神楽を奉納している。